

今年、トキが国内では38年ぶりに野外で巣立ちました！今年の夏は話題のトキについて調べてみよう！



トキ色って
どんな色？



トキはどんなものを
食べるのかな？

なぜトキは減って
しまったの？



トキ 夏休み特別企画 ふたたび 舞う

提供：環境省、協力：自然環境研究センター

我孫子市鳥の博物館

7月21日（土）～9月2日（日）

我孫子市鳥の博物館 千葉県我孫子市高野山234-3 ☎04-7185-2212 Fax.04-7185-0639

○開館時間：午前9時30分～午後4時30分 ○休館日：毎週月曜日（祝日の場合至平日）、年末年始

○入館料：一般300円／大学・高校生200円／小・中学生と70歳以上の方は入館料免除・20名以上の団体は二割引になります

○ホームページ：<http://www.bird-mus.abiko.chiba.jp>

夏休み特別企画「トキふたたび舞う」開催！！

国内で38年ぶりに佐渡島で野生のトキが巣立ちました。このことは、連日ニュースで取り上げられ注目を浴びました。この機会をとらえ、鳥の博物館では、夏休み特別企画として「トキふたたび舞う」コーナーを日本の鳥展の中に設置します。

佐渡島でのトキの復活事業は、トキという一つの種の保護だけが目的ではありません。トキ復活を通じて、私たちが安全で安心なくらしを続けていくための知恵をさぐりながら農村社会の復興が最終目標です。

トキは、かつて人里近くでふつうに見られる鳥でした。手賀沼を含む下総地域でも1895年（明治28年）2月21日に確認された記録が残っています。身近だったトキがなぜいなくなってしまったのか？この問いの答えをさがすことは、今、私たちがくらす環境の中で、持続可能な社会を築くためのヒントをさがすことにも通じます。

夏休み、ぜひご家族連れでご来館し、トキを通じて我孫子の自然に思いを馳せながら世代間での会話がはずむことを願っています。

「トキふたたび舞う」コーナーでは、鳥の博物館で所蔵しているトキのはく製、卵、羽毛の展示に加え、トキの現状、生態、歴史などもパネルでわかりやすく解説します。トキのぬり絵やスタンプなども用意し、子ども達も楽しく学べるようにしました。合わせて特別企画記念缶バッジの販売も行います。

ぜひ、おさそい合わせの上ご来館ください。

【展示内容】

○トキの今

環境省によると、今（2012年6月12日現在）日本で飼育されているトキは198羽、野外で生存しているトキは58羽です。

1999年、中国より寄贈されたトキのつがいから、人工孵化により初めてヒナが誕生し、その後順調に数が増えました。

2008年、野外で生活できるように訓練したトキ10羽をはじめ佐渡の空へ放鳥しました。

そして2012年6月、放鳥したトキから野外では38年ぶりに8羽のヒナの巣立ちが確認されました。

○トキってどんな鳥？

トキは、翼を広げると約130cm、体重1.6～2.0kg、コサギくらいの大きさの鳥で、大きな湾曲したくちばしの特徴です。また、翼や尾羽の羽毛は、うすい朱色で、この色は鴛色（ときいろ）と呼ばれ、日本人に好まれる色の一つです。

また、トキは、子育ての時期になると、首の皮膚から染み出る黒い色素を羽毛に塗りつけるため、上半身が黒くなります。黒い羽毛は、秋の換羽の時期に抜けかわり、再び全身白くなります。

○トキのくらし

トキのすむ環境は、樹林や湿地がまじりあった平地や丘陵地です。かつて人里近くに普通に見られた鳥で、各地に記録が残っています。

餌は、ドジョウやカエル、タニシ、サワガニ、昆虫など、ため池や水田、その周辺の草地にすむ生きものです。

繁殖活動は2月ころからはじまり、3月にはなわばりをかまえ、地上10mほどの樹上の又に、小枝を積み重ねた巣をつくります。

○日本のトキの歴史

20世紀のはじめ、トキは中国、ロシア、朝鮮半島、台湾、日本など、東アジアに広く分布していました。しかし、開発などで生息環境が減少すると、各国で次々に絶滅し、野生のトキが生息するのは、中国の陝西省（せんせいしょう）洋県（ようけん）だけになりました。

日本では、1982年、個体数が極度に減少したトキを保護するため人工増殖に踏み切りました。この年、野生個体全5羽を捕獲した時点で、野生絶滅しました。

その後、中国から借りたトキの人工増殖に成功し、個体数も着実に増え、2008年に野生放鳥が開始されました。放鳥から5年目の今年（2012年）、野生ではじめての巣立ちが確認されました。